

多摩区老人クラブ連合会

○ 地域紹介

北に多摩川が流れ、南部に多摩丘陵が広がり、「多摩川梨」栽培で知られた農村地帯の景観を残した緑多い地帯である。

昭和47年4月に川崎市が政令都市に移行したのに伴って多摩区が誕生した。昭和57年2月に多摩区の北西部が麻生区として分区され現在に至っている。

都心に近く、通勤通学の便に恵まれ、大規模な宅地開発が進み人口20万を超える地区となった。特に多摩丘陵に位置する生田緑地には「岡本太郎美術館」「藤子・F・不二雄ミュージアム」「川崎国際生田緑地ゴルフ場」「ばら苑」他「よみうりランド」などの各種娯楽施設が点在し市民の憩いの場となっている。特に江戸時代に開削された多摩川からの導水の「ニヶ領用水」の水路の両岸は、春の桜並木の景観が市民を楽しませている。

また、地区内には「日本女子大学」「専修大学」「明治大学」など3つの大学が設置され、学生の街としても賑いでいる。

○ 設立経過

多摩区老人クラブ連合会の結成は昭和35年9月1日と記されている。この当時は麻生区とは分区されておらず多摩区と麻生区が一緒であった。

多摩区に於いて昭和33年に「稲田朗生クラブ」が誕生し、昭和34年には「生田長寿会」と「菅長生会」、昭和35年には「宿河原長生会」、昭和36年に「長尾長樂会」に、昭和38年に「中野島親生会」と各町会ごとに次々に設立されてきた。

昭和38年8月1日に「老人福祉法」施行に伴い各町会・自治会に於いて老人クラブの設立の動きが起こり多くのクラブが誕生してきた。また昭和40年以降の農地や山林の宅地開発や団地の設置等による急激な人口の増加が進み、町会や自治会の設立と共に老人クラブの誕生も増え、平成12年には71クラブ4300名を超える会員であった。その後会員の高齢化と指導者不足からクラブの減少傾向が続いたが、平成20年以降微増傾向にある。

○ 設立年月日

昭和33年5月 稲田朗生クラブ発足

昭和34年4月 生田長寿会発足

昭和34年7月 菅長生会発足

昭和35年3月 宿河原長生会発足

昭和36年4月 長尾長樂会発足

昭和38年7月 中野島親生会発足

昭和39年9月 多摩区老人クラブ連合会設立 会長 青戸 藤平

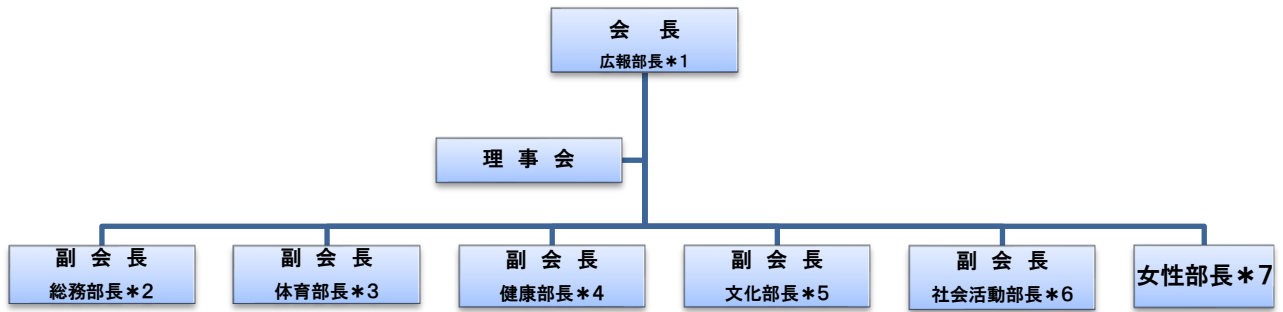
○ 活動目的

☆全国老人クラブ連合会が掲げる「健康」「友愛」「奉仕」の三大運動を基本とした事業を推進する。

- ① 地域住民との交流と絆を深め、仲間づくりの輪を広め、クラブへの加入促進を図る。
- ② 「介護予防」のため各種スポーツ活動を通して実効性のある健康づくりを行う。
- ③ 高齢者の知識・経験を生かした活動を展開し、明るい高齢者社会の実現をめざす。

- ④ 地域の生活を豊かにする「社会奉仕活動」と「安心・安全まちづくり」に参加し、町会や自治会の活動に積極的に協力する。
- ⑤ 生きがい作りのための社会制度の学習・実践講座を開催する。
- ⑥ 「友愛チーム活動」を強化推進し、地域での「高齢者福祉」の担い手として活動し、災害時にも高齢者どうし助け合う環境を整備する。
- ⑦ 広報紙（会報）を年2回発行して全会員に配布し情報の共有化を図る。

○ 区・地区老連の組織
（7部15委員会で構成）



- *1 広報部：会報委員会
- *2 総務部：総務委員会・会員増強委員会・交通安全委員会
- *3 体育部：スポーツ大会委員会・ゲートボール委員会・グラウンド・ゴルフ委員会
- *4 健康部：ペタンク委員会・いきいきクラブ体操委員会・体力測定委員会
- *5 文化部：演芸大会委員会・趣味の作品展委員会
- *6 社会活動部：友愛委員会・社会奉仕委員会(多摩川クリーン活動、社会奉仕の日)
- *7 女性部：女性委員会（女性部大会、市民祭参加、区民祭参加、交通安全祈願品制作、各種行事協力）

○ 主な年間行事

〈1〉区老連での行事

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ① スポーツ大会（毎年） | 〈1〉 演芸大会（毎年） |
| ② ゲートボール大会（毎年） | 〈2〉 趣味の作品展（毎年） |
| ③ グラウンド・ゴルフ大会（毎年） | 〈3〉 全国一斉「社会奉仕の日」（毎年） |
| ④ ペタンク大会（毎年） | 〈4〉 市老連一斉「多摩川堤防清掃（毎年）」 |
| ⑤ 体力測定会(年1回以上地区別) | 〈5〉 友愛チーム研修会（毎年） |
| ⑥ いきいきクラブ体操会(年1回以上地区別) | 〈6〉 会長・友愛代表研修会(毎年) |
| ⑦ 多摩区区民祭に参加・協力 | 〈7〉 高齢者交通安全講習会（毎年） |

*ゲートボールとグラウンド・ゴルフの代表選手は、川崎市代表となり「全国福祉祭」に参加。

〈2〉各地区での行事（稲田、登戸、中野島、菅、生田）

- | | |
|---------------|----------------------|
| ② ゲートボール大会 | 〈1〉 演芸大会 |
| ③ グラウンド・ゴルフ大会 | 〈2〉 旅行会 |
| ④ ペタンク大会 | 〈3〉 小生徒登下校見回り活動 |
| ⑤ 体力測定会 | 〈4〉 小学生と高齢者との福祉交流会 |
| ⑥ いきいきクラブ体操会 | 〈5〉 地区社会福祉協議会主催行事に協力 |

- 〈6〉 小學校生徒に「昔の遊び」指導
- 〈7〉 中學校生徒との年寄のスポーツ交流

○ 友愛チーム活動紹介

在宅福祉を支える友愛活動（令和3年4月現在）

友愛チーム数 57チーム、 活動員 333名、 訪問対象者数 301名

支えあいの心は人が生きゆく知恵である。この知恵の具体的活動の一つが「在宅福祉を支える友愛活動」である。超高齢者社会を迎え、寝たきりやひとり暮らしの高齢者が増加しつつある今日、老人クラブの「友愛チーム」は同世代の仲間として、これらの方々を訪問して良き「話し相手」や「悩みの相談」を受け、必要に応じて「簡易なお手伝い」などを行い、孤立した高齢者を温かく見守りながら、災害時においても安心して暮らせる地域の支え合いの輪へとつなげている。

毎年2月に「友愛チーム研修会」実施⇒各地区の事例発表を行う